

罪の処理 (ヨハネ 8:10-11)

きょうの聖書箇所は、姦淫の現行犯で捕まった女が、イエス様の前に連れて来られ、モーセの律法なら、石打ちにされて殺されるべきだけれど、どうするのかと、ユダヤ人たちがイエス様に問い詰めた場面です。私たちは地上にいる間、罪と過ちを避けて生きることができません。そのような罪や過ちをどのように受け止めて処理すべきかを正しく知りましょう。

世の中は、罪や過ちは、それに相当する報いとして罰を受けるべきだと言います。そのルールに従い、罪を犯すと良心の呵責を覚え、罪責感に苦しむようになります。それでない場合は、なんとか自分なりに罪や過ちを合理化して、罪ではないかのように見ようとしてみます。このような報いの原理では、傷しか残らず、どんなに合理化しても、罪はなくなるので、報酬から逃げることはできません。世の中の処理方法では、心にしこりが残り、重荷となり、いのちの祝福は残りません。神様の願いは人を生かすことです。赦しも、寛容になって赦そうとすると、がまんすることになって病気になる。また、赦さずに罰を与えても、罰を与えた側も与えられた側も傷が残ります。人間は、正しいかまちがついているかで終わるような存在ではなく、霊的存在なので、裏で暗やみの力、悪霊の力が働きます。このような世の中の処理方法ではなく、罪の処理への正しい答えを教えるために、聖書では明らかに罪を犯して逃げることもできない、どうしようもない女を登場させたのです。いちばんわかりやすい明白な罪なので、それに対する聖書にある罪の処理法を知ることによって、その答えを持って、罪を処理するようにしましょう。

まず、罪に対しては、人の前ではなく、神様の前で考えましょう。神様の前では、罪は大小は関係ありません。すべての人が、罪に定められて、石打ちにされて当然な存在です。目に現れる罪を見るのではなく、その罪を通して罪の根本を見るべきです。神様とともにいるべき人が、神様から離れてしまったから、そうなるしかありません。悪魔から出た者と言われる存在

であり、さばかれて当然な根本があります。滅びの運命に捕らわれているという物的証拠として、目に見える罪を見るのです。神様の御前で判断するとき、人間の中で罪に定めてさばくことができる人間はいません。(ローマ 3:9, 10, 23) さばきは神様がなさることで、人にはさばく権利がないのです。根本を見るなら、私も同じで、すべての人が罪を抱えています。罪人同士なので、さばく権利がないということを、私たちは理解していなければなりません。これが、イエス様が「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」と言われた意味です。旧約時代に、石打ちにしなさいと言われたのは、キリストを忘れると地獄に行くから、そうやってはならないという意味でした。

キリストであるイエス様が来られたので、罪や過ちを犯している他の人を見たときは、それは、自分をうつす鏡にしましょう。私もその人と同じだと神様が見せておられ、それが私の姿だと見るのです。そして、私はもっとひどい人間だと、自分を振り返るためのことです。他の人と同じ症状があらわれてないだけで、自分ももっとひどい人を殺すような存在だと見るのです。サタンが正しく見ることができずにさせるので、私をうつす鏡として神様がゆるされた出来事だと見るようにしましょう。イエス様は、他人の目の中のちりを見るのではなく、自分の目の中の梁があるのに気づきなさいと言われました。そして、他の人の罪、過ちを見たときは、どんなものでも、キリストの前に持って行きましょう。すべてをおろして、ただキリストの前に持って行くのです。さばきは、神様がなさいます。「疲れて重荷を負っている者はわたしのところに来なさい」とイエス様は招いておられます。そして、イエス様を信じる者はさばきにあうことはなく、死からいのちに移っているのだと言われたように、キリストの前でまことの赦しを体験しましょう。みんながキリストが必要で、それゆえ、イエス様がキリストとして来られ、十字架で身代りに死なれました(ガラテヤ 3:28)。罪、過ちを処理できる唯一



の方であるイエス・キリストの前に立つことが、罪の処理の方法です。キリストによるまことの赦しを求める気持ちを持つこと、これが私たちが他の人の罪、過ちに対する処理の方法であり、スタンスです。他の方法はまったくありません。

それから私たちが自分の罪、過ちを処理する方法は、イエス様と女とのやりとりのように、イエス様以外のすべての声をしりぞけることです。女が「だれもいません」と言ったように律法の声、人からの声、自分の肉の声、良心の声、すべて退け、取り除いて、なにもなくなってイエスと私と2人だけが残るのです。そして、真実な告白として、自分が石打ちにされて当然な罪人であり、私に必要なのは神様のあわれみであるキリストだけだと、弁明もせずに告白するのです。地獄に行って当然である汚れた罪人です。希望はキリストだけで、そんな私のために十字架ですべて処理して勝利されたことを信じますと、イエスはキリストだと告白するのです。そして、イエス様の赦しの宣言のみが耳に残るようにしましょう。「わたしもあなたを罪に定めない」と言われた宣言だけがまことのことです。他は悪魔の声なので、しりぞけましょう。罪に捕らわれてはなりません。これだけが生きる方法です。

そして、最後に「今からは決して罪を犯してはなりません。」と言われましたが、こんど罪を犯したら赦さないと意味ではなく、「あなたは、ほんとうに赦され、新しく造り変えら

れた」という宣言です。ですから、まことの赦しの確信を持って、新しい祝福の人生を決断しましょう。罪と死の原理から解放されたので(ローマ 8:2)、赦しの宣言をして、感謝して、神様の栄光と祝福を大いに感謝して味わいましょう(ローマ 5:1-2)。罪の赦しとともに、そのような新しい人間に変えられたということをいっしょに確認するのです。そして、さらに新しい信仰の味わいを固めていくようにしましょう。いままでの罪に捕えられていた人生、衣食住を心配する人生は終わり、神の国と義を求め、福音宣教、世界福音化の人生だと固めていくのです。罪や過ちを通して、自分が幸いな者、伝道者の人生だと確認しましょう。そして、伝道者の人生として決断をくだしましょう。解放されているので、積極的に神様とともにいる祝福、福音宣教を確認していきましょう。

主の祈りにあるように、罪や過ちは避けられないのですが、それに引っかけからず、すみやかに赦しの確信を持ってイエス・キリストの赦し、救いのわざは、より大きいことを告白しましょう。地上にいる間、罪や過ちにとらえられて、伝道者の人生に損することはないようにしましょう。伝道者の自覚、自信、勇気を失わないのが、罪の処理です。私たち以外には、暗やみの滅びの運命に捕らわれている人をイエスの御名によって救い出せる者はいません。罪に勝利する伝道者の人生を歩みましょう。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)

メッセージカード

ヨハネ 8 : 10-11 罪の処理

なるほど/世の中を生きる限り、罪を避けることはできない。だから罪と過ちをどのように処理するかは、人生の勝利の重要なテーマである。石を持ち上げる律法では傷だけが残る、合理化は罪の沼にそのままはまってることになる。他人の過ちでも自分の罪でも罪はキリストの前にもっていき、真の赦しの解決の他に道はない。ならば/罪と過ちに引っかかっていないで、キリストの中で赦しの確信と感謝を持とう。罪の多少を測るより、イエスの偉大さがより大きいことを告白しよう。伝道者の人生を損ないようにしよう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2017年7月2日)

1部礼拝 : 真に幸いな者 (詩1:1-6)

2部礼拝 : 第2のRUTC運動のために備えられた者 (使19:8-10)